近畿大学医学会雑誌投稿規定

1. 近畿大学医学会は公式に 2 種の雑誌を刊行している．その一つは英文誌の Acta Medica Kindai University（Acta Med Kindai Univ)で，用語は英語とする．他は和文誌の近畿大学医学雑誌(近畿大医誌)で,用語は日本語とする.
2. 投稿者は原則として近畿大学医学会会員に限る．ただし，編集委員会が特に依頼したものはこの限りではない.
3. 論文は医学に関する創意的な原著，総説，症例報告などで，原則として他の刊行物に発表もしくは受理されていないものに限る.
4. 原稿は本規定および別に定める原稿作成要項に従って作成され，内容と体裁が整っており，直ちに印刷することができる状態のものでなければならない.
5. 原稿の本文の長さ，ならびに図，表，および文献の数は全体のバランスにより制限することがある.
6. ヒトを対象とする研究の報告は，ヘルシンキ宣言の原則にのっとり倫理委員会等の承認を得たものである事を記載しなければならない．また，動物実験の報告は動物愛護の精神に基づき近畿大学動物実験委員会等の承認を得たものである事を記載しなければならない.
7. 既出版の図表などの引用については出版社および著者の承認書を添付し，また個人識別ができる患者の写真を掲載するときは，患者本人もしくは法定代理人の承諾の手紙を添付することが必要である.
8. 投稿の際は，原稿（original）のデータならびに編集委員会所定の連絡票および原稿チェックリストと著作権の同意書をメールまたは Slack（院内専用連絡ツール）にて提出する.
9. 共同執筆の場合，近畿大学区学会所定の書式で，すべての共著者が当該原稿の投稿を承認したことを記述した資料を添付すること.
10. 投稿原稿の掲載の可否は，すべて編集長が依頼した担当編集委員及び複数の査読者による査読を経て，決定される.
11. 論文の掲載の順序は，原則として完成原稿の受理日の順とする．ただし，校正等に要する時間によっては掲載される号が変わることがある.
12. 校正は著者の責任において行われる．著者校正は初校のみとする．初校にあっては必要最小限の訂正に止め，行の増減を伴わないよう配慮すること．組版に影響するような大きな修正は編集長の許可を必要とする．指定の期日までに返却されないときは編集委員会の責任校了とする.
13. Acta Med Kindai Univ については，カラー写真の費用は全額著者が負担するものとする．近畿大医誌については，組版代および図版（写真を含む）費用の全額を著者が負担するものとする．また両誌とも別刷についてはすべて有料とする．尚，編集委員会からの依頼論文など特殊な場合の経費については，別途に定める.
14. 特急査読論文として当該年度の 3 月 15 日に学位記を授与されるための論文（甲）を 8 月 1 日より 9 月30日までの間に投稿する場合，近畿大学医学会事務室に特急査読料（100,000 円）を納付した後に受付される.
15. 発行予定は，Acta Med Kindai Univ 及び近畿大医誌共に年 2 号（6，12月）とする.
16. 投稿先は〒590-0197 大阪府堺市南区三原台 1 丁 14 番 1 号　近畿大学医学部近畿大学医学会雑誌編集室(電話 072-288-7222 内線 1418 FAX 072-298-1643 E-Mail: henshu@med.kindai.ac.jp）とする.
17. 「原稿作成の手引」は各巻の第 1 号に掲載されている．また，必要な場合は編集室に直接申込むこと.
18. 論文の著者および共著者は，当該論文の著作権が近畿大学に帰属すること，および掲載された論文については冊子体以外の媒体で公開されることを承諾したうえで投稿する.

（2026年 6 月改訂）

Presented by Medical*Online

原 稿 作 成 の 手 引 き

1. 一般的注意

1) 本要項は近畿大学医学雑誌（近畿大医誌）に投稿する論文執筆の参考にするため作成したものである.
2) 近畿大医誌は広範囲の領域の研究者により読まれることが期待されるので，平易でわかり易い表現を心掛け，ある専門領域でのみ通用する用語，略語は避けるべきである.
3) 記述は正確，明快，簡潔なものであるとともに，必要かつ十分なものであるべきである.
4) Word ファイルをメール及び Slack（院内専用連絡ツール）にて提出する.
5) 数字は原則としてアラビア数字とする．3 桁ごとに，を打ち，小数点は . とする．ただし単位を適切に選び，0 が多く連なり長くなることを極力避けるよう配慮すること．また，日本語の成語となっているものは漢字で書く（例えば二重，四捨五入）.
6) 文章は現代仮名づかい，平仮名混りの日語体とする．読み易いように適切にコンマを用い文章の終わりはピリオドとする（。とはしない）．長文や複雑な構文はなるべく避ける．医学用語以外の漢字は原則として常用漢字を用いる．あるいは，いまだ，および，さらに，ただし，なお，ならびに，まだなどは平仮名で書く．また，日本語化した外来語は片仮名で書く（例えばラジオ）.
7) 字体を指定するときは，下記のように下線をつける.
   ゴシック体〰〰〰，イタリック体————，
   スモールキャピタル ═══ ラージキャピタル ═══
   イタリックは生物名のときなど特に指定されたときのみ用い，原則的に本文中で強調する目的には使用しない．常用されるラテン語，例えば in vitro, in vivo, etc., et al. などはイタリックにしない.
8) 論文作成のために日本語および英語科学論文作成のために多くの参考書があるのでぜひ一読しておかれたい.

2. 論文の種類

1) 近畿大医誌に掲載される論文は，原著，総説，症例報告の他，編集委員への手紙あるいは技術レポートなど幅広い内容と形式を含む.
2) 原著は，著者自身の学術研究で，ある結論に達したものをまとめたもので，方法，結果，またはその解釈が従来の報告にみられない，新規で独創的なものを含んでなければならない.
3) 総説は，ある主題について，既に発表された内外の文献を紹介し，現時点におけるその主題の研究状況と将来の展望などを総合的に論述するもので，必ず著者自身の学問的見解が反映されていなければならない.
4) 症例報告は，主として患者の症例について体験の結果を報告するもので，原因，診断，治療などについて討議する価値があると判断されたものでなければならない.

3. 論文の基本構成

1) 原稿は，原則として次項（3.2）に示す順に各項目ごとに新しい頁から書始め，一まとめに揃える．表紙から始めて文献まで，連続した頁番号を打つ．図は別にまとめること.
2) 論文は通常次の項目からなる.
   (1) 表紙，(2)抄録とキーワード，(3)本文，(4)謝辞，(5)文献，(6)表，(7)図の説明，(8)図.
3) 原著の本文は通常次の項目からなる.
   (1) 緒言，(2)方法，(3)成績，(4)考察
4) 総説，症例報告などでは 3）に準じるが，適宜変更しても差支えない.

4. 表　紙

1) 通常表題，氏名，所属，省略題名，脚注の順に記載する．表題，氏名，所属に対応する英文をあわせて記載する.
2) 表題は論文の中で通常最初にしかも最もよく読まれるものであり，論文の内容を簡潔かつ明確に示すことか必要である.
3) 副題はなるべく避ける.
4) 動物実験の場合は原則として動物名を表題に含める．この際学名でなく一般名を用いることが望ましい（例えば，ラット，カエル）.
5) 表題には略語や記号は原則として使用しない.
6) 氏名は連名のときは 1 字分あけて書き，各著者

Presented by Medical*Online

間にコンマは用いず．また最後にピリオドは打たない．学位，職名などは付けない．

7） 連名の場合，筆頭著者と所属の異なるものは[1], [2]などを右肩に付して区別する．

8） 所属は，近畿大学医学部内科学教室（循環器内科部門），近畿大学医学部附属病院臨床検査部などと略さずに記載する．第１などの数字はアラビア数字とする．

9） 省略題名（Running title）は，30字以内のランニングタイトルを付ける．欧語論文では，スペースも含め50字以内とする．

10）表紙の脚注には，別刷請求先が筆頭著者と異なる場合（別刷請求先：〒○○○○○○○市○○○○大学医学部○○学教室と記す），および著者の所属変更（†現所属機関：〒○○○○○○市○○○○大学医学部○○学教室と記し，氏名覧右肩に†を付す）の場合のみ記載すること，学会発表や研究費補助は謝辞の項に記載する．脚注の最後に連絡先（電話番号を含めること）と氏名を記載する．

5. 抄録とキーワード

1） 抄録は本文から独立したもので，本文を参照しなくても研究の要約が理解されるものでなくてはならない．研究の目的，試験または調査の基本的企画（実験動物種，研究対象，検索または分析方法など），主要成績（新しく重要な点を述べ，統計的有意性についても触れる）および結論を含んでいることが必要である．全体で600字以内にとどめる．一人称は使わない．

2） 原則として分節はしない．

3） 略語は衆知のもの（例えばWHOなど）を除き用いない．すなわち，本文中に正式名の次に括弧で示した略語は抄録では原則として用いないこと．

4） 抄録には原則として文献を引用しない．

5） キーワードとして論文の内容を適切に示す主要な単語，もしくは短い語句を６語程度選択する．キーワードは二次資料において検索の重要な手掛りとなるもので，Medical Subject Heading（MeSH，Index Medicus）を参考にし，できるだけそれから採用することが望ましい．２つの単語を接続詞や前置詞でつながないこと．また，キーワードの配列は，原則として重要度順とする．

6. 本　文

1） 緒言

研究の目的を明確に述べ，研究の必要性，意義を要約する．この際，研究に直接関係する文献を厳選し，歴史を広範囲に解説するような総説的，教科書的記述をしてはならない．実験結果の要約をここに記述することは避ける方がよい．

2） 方法

ⅰ）研究に用いた材料または対象と，実験（観察）方法を述べる．動物実験にあっては，動物種，系統，性，体重，年齢，飼育環境，飼料と飲料水を明記すること．

ⅱ）実験または調査にあっては，読者が実験もしくは調査を繰返すことが可能な情報がすべて含まれていることが必要である．国際的な専門誌に発表された衆知の方法および近畿大医誌に掲載された自己の論文と同じ方法を使用したものであれば，その論文名を引用して簡略に記述してもよい．新しい方法もしくは変法を使用したときはその理由を述べること．特殊な機器を使用した場合は，その製作所名と所在地を（　）内に示す．

ⅲ）動物実験は，実験動物の飼養並びに苦痛の軽減に関する基準（平成18年　環境省告示第88号）に反するものであってはならない．実験時および剖検時の麻酔を明記する必要がある．麻酔をせずに実験を行ったときは，その必要性，動物の苦痛を最小限にするよう行なった処置について述べる必要がある．

ⅳ）ヒトを対象とした実験的研究では，1975年のヘルシンキ宣言（東京改訂）の原則を遵守して，被験者に実験内容を説明し，承諾を受け，倫理的に正しく試験が施行された由の記載が必要である．

3） 成績

ⅰ）結果を事実にのっとって記述する．表や図にまとめて本文の記述を簡潔にすることが望ましい．この際，図や表に示された個々のデータは，特に強調すべきもの以外は，本文中に繰返すことを避け，重要所見のみを要約すること．なお，図や表はすべて本文中に引用されなければならない．

ⅱ）統計的処理を行なったものについては，観察，平均値，標準偏差あるいは標準誤差，確率などを本文もしくは表，図中で示し，統計的有意差について述べることが必要である．

4） 考察

成績の項で述べた事項を詳細に反復することは避け，得られた所見の解釈や意見に重点を置き，先人の業績との関連について論じる．研究の新規でかつ重要な面を強調し，成績から導き出される結論を明確にする．先取権を争うような記述は避けるべきである．新しい仮説の提唱は歓迎されるが，十分に事実に立脚したものでなければならない．

Presented by Medical*Online

5） 見出し

ⅰ）本文中に見出しおよびその番号をつけない．緒言，方法，成績，考察および謝辞は太活字で印刷されるので，見出しを付けない．

6） 脚注

本文中には脚注を設けない．表紙および表の脚注はそれぞれの項を参照のこと．

7） 用語

ⅰ）医学用語は各専門学会設定の用語集や日本医学用語辞典などを参照して，最も適切な語を用いる．

ⅱ）日本語の定訳のない医学欧語については，原語のまま使用してよいが，本文中に最初に現われる所で，仮訳を（ ）で記することが望ましい．

ⅲ）各専門領域や病院内でのみ通用する俗称や略称は用いてはならない．

ⅳ）外国人名，地名，その他の外国語名は原則として原名綴りのままとする．固有名詞とドイツ語の名詞のみは最初の一字を大文字，その他は小文字とする．ただし極めてよく知られた語は片仮名で書いてもよい（例えば，アメリカ）．

ⅴ）本文中の人名は姓のみとし，名や敬称は原則として省く．同姓のものがあるときは名もしくはイニシャルを入れて区別する．

ⅵ）動物や微生物名のラテン語学名は大文字で始め，イタリックで書く（下線でイタリックと指定しておく）．最初に出てくるときは属名を省略してはならない．日本語は片仮名で書く．日本語名もしくは欧語名とラテン語学名を併記するときは日本語もしくは欧語名を先に書く（例えば，アカゲザル，Macaca mulatta ; Japanese monkey, Macaca fuscata）．

ⅶ）薬品名など化学物質名は，できるだけ一般名を原名綴りで小文字で書く，化学記号で記すことは本文中では避ける（例えばNaCl）．商品名は大文字で始め，.. を右肩に付する．商品名を単独で使用することはなるべく避け，一般名の次に（ ）で商品名を示すこと〔例えば，hydralazine hydrochloride（Apresolin®）．ただし極めてよく知られている化学物質名は片仮名で書いてもよい．商品名は本文中には反復して用いず，一般名もしくはその省略名を用いることが望ましい．

8） 省略

ⅰ）衆知の省略語以外の専門用語を省略して用いようとするときは，本文に最初に述べられるところに正式に書き，続いて（ ）に省略名を示す．例えば rheumatoid arthritis（RA）とする．（以下 RA と略す）のように以下と「略す」を書かない．

ⅱ）表題および抄録では省略名は原則として使用しない．ただし抄録で繰返し使用する時は最初に正式に書き，続いて（ ）内に省略名を書く．

9） 単位

ⅰ）原則として国際単位系（International System of Unit. SI）を用いる．

ⅱ）SI 系の基本単位は 7 つで，長さはメートル m，質量はキログラム kg，時間は秒 s（sec とはしない），電流はアンペア A，熱力学温度はケルビン K，物質量はモル mol，光度はカンデラ cd である．

ⅲ）10の単位のべき指数表記に用いる位取り接頭語としては，10^3 キロ k，10^2 ヘクト h，10デカ da，10^{-1} デシ d，10^{-2} センチ c，10^{-3} ミリ m，10^{-6} マイクロ μ（μとイタリックにはしない），10^{-9} ナノ n，10^{-12} ピコ p などを用いる．これらの単位にピリオドはつけない．また複数のときも s を付けない

ⅳ）一般に医学で許されている非 SI 単位としては，時間については分 min，時（60分）h（hr とはしない），日 d であり，週 wk，月 mo，年 yr なども用いてもよい．さらに体積のリットルは l（＝ldm^3，イタリック *l* や大文字 L にはしない．接頭語がなくまぎらわしいときは必要に応じ liter と綴る），角度（度° ＝ π/180 rad，分′，秒″）なども許される．その他当分の間一般に許される非 SI 単位としては，キュリー ci（3.7×10^{10} Bq），レントゲン R（2.58×10^{-4} C/kg），ラッド rad（$=10^{-2}$ Gy あるいは10^{-2} J/kg）がある．またモル濃度（M＝mol/l）も使用しうる．栄養学においてはエネルギーの単位としてキロカロリー $kcal_{th}$ は使用しうるが，SI 単位の 4.184 kJ または0.004184 MJ を併記することが望ましい（calorie，Calorie とは書かない．）

ⅴ）次の単位は用いないこと．したがって→の単位を用いる．オングストローム（Å）→0.1nm，ミクロン（μ）→μm，ミリミクロン（mμ）→ nm，ガンマ（γ）→μg，ラムダ（λ）→μl.

ⅵ）医学における SI 単位の使用については，WHO. The SL for the health professions. Geneva : WHO, 1977を参照されたい．

7. 謝　辞

ⅰ）研究の企画や進行，論文の作成などは特に助力を受けた人に対し，簡潔に謝意を表する．

ⅱ）研究費の補助は，単にその事実をここに記載する．補助に感謝するという表現はしない．

ⅲ）学会発表の記録を述べるときは，「本論文の要旨は○年○月，第○回日本○○学会で発表した」

Presented by Medical*Online

というような形式でここに記載する．謝辞に続いて，利益相反に関して明示する．開示すべき利益相反状態が無い場合もその旨を記載する．

8. 文　献

1） 本文中の引用箇所に引用順に一連番号で文献番号を上付きのアラビア数字で，[1,2,3,4-6]のように示す．

2） 本文中に著者名を記載するときは，Smith（1人の場合），Smith と Young（2人の場合），Smith ら（3人以上の場合）と記す．

3） 表や図のみに引用される文献については，その表や図が最初に本文中に述べられる箇所で，本文中の引用順に番号を打つ．

4） 引用文献は一括して文献の項に引用順に記載する．

5） 文献の記載方法は，下記の記載例に準じるものとする．雑誌名の省略は，欧文誌は Index Medicus（毎年1月号に省略名のリストが掲載されている）に従い，和文誌は SIST 科学技術情報流通技術基準05：雑誌名の略記，東京：日本科学技術情報センター．1981に原則的に従う（医学中央雑誌収載目録，医学中央雑誌1983年第24号通巻第3303号付録を参照のこと）．なお，本医学会の雑誌の省略名は近畿大医誌および Acta Med Kindai Univ である．

6） 文献の記載は，原則として，雑誌の場合は，著者名，発行年，題名，誌名，巻，頁（通巻頁の始めと終り）の順に，単行本の場合は，著者名，発行年，論文題名，編者名，書名，発行地（複数のときは最初の地名のみ），発行所，頁（始めと終り）の順に記す．

著者名は5名までは全員書く，6名以上は1名書いて，らもしくは et al. をつける．和文誌は姓名を記し，欧文誌のときは名はイニシアルのみを記載する．著者の姓と名の間にコンマや，イニシアルの次にピリオドは打たない．イニシアルが2つ以上ある場合その間にスペースを置かない．また雑誌の省略名の次にピリオドは打たず，論文名や書名はすべて最初の語のみ大文字で始め，後に続く語は固有名詞とドイツ語の名詞以外は小文字で始める．副題があるときは：（コロン）で結び，副題は固有名詞やドイツ語名詞の場合を除き，小文字で始める．

終りの頁は，完全に書く（最初の頁と同じ数字の桁も省略しない）．

文献の記載例は下記のごとくである．

ｉ）雑誌

1．Ashida T, et al.（1993）Change of serum erythropoietin levels after allogeneic bone marrow transplantation. Acta Med Kindai Univ 18: 13–19

2．Foroni L,et al. Rearrangement of the T-cell receptor delta genes in human T cell leukemias. Blood（in press）

ii）図書

著者が個人の場合

1．Adams DO, Edelson PJ, Koren HS（1981）Methods for Studying M ononuclear Phagocytes. San Diego, CA, Academic Press, pp 1–293

編集者などが著者の場合

1．Benirschke K, Garner FM, Jones TC, eds. Pathology of laboratory animals. New york : Springer-Verlag, 1978.

2．上田英雄，武内重五郎編．内科学．東京：朝倉書店，1977

単行本の中の1章など

1．Sallan SE, Weinstein HJ（1987）Childhood acute leukemia, In: Nathan DG, Oski FA（eds）: Hematology of Infancy and Childhood, Vol 2. Philadelphia, PA, Saunders, pp 1028–1031

7） 未公表資料，私信（Personal communication）などは文献としては引用しない．本文中に（　）を付して明記する．受理されたが未刊行の論文は文献として採用し（印刷中，欧文誌ではin press）とする．送付したが受理されていない論文は，文献とはせずに，本文中に（未発表，unpublished observation）とする．私信を掲載するときは発信人の許可を必要とする．

8） 文献は原典を著者が確認すべきであり，原則として再引用（孫引）はしないこと．止むを得ず孫引をするときは，原典の次にそれを引用した文献および引用頁を明らかにし，―より引用と明記する．

9. 表

1） 表は各個体もしくは群の実験値あるいは観測値を簡潔にまとめて比較するためのもののほか，本文中に羅列すると冗長になりやすい分類や体系を箇条書き的にまとめるなどに利用される．したがって，表示した成績を本文中でくどくど再説明しないこと．また特に必要でない限り，同一データを図と表に重複させない．

2） すべての表は本文中に指示されていなければならない．本文中に引用される順に表1，2と番号

Presented by Medical*Online

を打つ．本文中では，「…表1に示した.」，「…である（表1）.」などと表現する．

3） 原則として刷上がり1頁以内におさまるように工夫すること．雑誌を横にしてみる表はなるべく避けること．

4） 表は，1表ごとに1ファイルとして作成提出する．原則として写真印画は受付けない．学会発表スライドは，表現が簡略すぎるなどそのままでは雑誌には不向きことが多いので注意すること．

5） 表のけい線はできるだけ省略する．縦線は原則として入れない．通常は3本の横線で十分である（縦欄見出の上，下および表部分の下に各1本）．

6） 表題，見出し，データ部分，脚注など全て日本語で表現する．

7） 表に実験値または観測値など数字を並べるときは，適切な単位を用いて異常に大きい，あるいは小さい数字にならないよう配慮し，有効桁数を揃える．また平均値と標準偏差もしくは標準誤差の有効桁数のバランスも考慮する．平均値はm,標準偏差SD,標準誤差はSEで表わす．必ず実験（観察数，n）を明示し，検定の確認が可能なように配慮する．

8） 実験材料など詳細な説明は，脚注として表の下に配置する．見出し記号には*，**，†，§，などが用いられる．危険率pは小文字とし，イタリックとする．文章でない説明にはピリオドは原則として打たない．

10. 図

1） 図には線画，中間調の図と写真があるが，ここではすべて図として取扱う．

2） 図には折線や棒グラフ，平面もしくは立体模式図などがある．表よりも視覚に訴えて一見して理解できる利点があるが，反面，正確または詳細なデータの記載には向ない．これらの点を総合的に考慮して，より適切な方法を選ぶこと．原則として同一データを図あるいは表と本文とで重複させない．

3） すべての図は本文中に指示されていなければならない．本文中に引用される順に1. 2と番号を打つ．文章の一部として示すときは，図1に示すごとく……のように表記するが，（　）内に示すときは（図1）とする．複数の場合，前者では，写真の場合も区別せずに図として通しの番号を付し，写真とはしない．

4） 線画と中間調の図

i） 原則として，そのまま製版可能な完成データとして作成すること．学会発表用スライド等の流用は，不要な文章の混在や表記の不統一が生じやすいため，そのままの使用は不適切である．

ii） 図の大きさは掲載時の仕上がりを考慮して作成すること．原寸でも可とするが，一般には2/3～1/2程度に縮小されることを想定すること．近畿大医誌，Acta Med Kindai Univとも，横幅1段7.5 ㎝，2段連続15.0 ㎝を基準とするため，いずれかに収まるようレイアウトすること．製作上は1段幅（7.5 ㎝）での掲載が望ましいため，縮小後でも判読可能な文字サイズおよび線の太さとすること．なお，2段の途中にまたがるような配置は原則として避けること．

iii） 図中の用語や縦軸・横軸の表記および数値は，著者の責任において完成させておくこと．掲載時に文字高が1.5 ㎜以上となるように調整すること．

iv） 図は1図につき1ファイルとして提出すること．ファイル名には図番号を明記し，必要に応じて著者名を付記すること．

5） 写真

i） 写真データは，コントラストおよび解像度が十分で，鮮明なものを提出すること．カラー画像については色調を適切に調整し，最終的な掲載イメージを確認のうえ提出すること．

ii） 写真の大きさは掲載時の仕上がりを考慮し，1段幅（7.0 ㎝）または2段幅（14.0 ㎝）に収まるように作成すること．縦方向は必要に応じてトリミングし，最大21.5 ㎝程度を目安とすること．

iii） 写真内にラベルや文字を挿入する場合は，端から十分な余白（目安として3 ㎜以上）を確保し，欠けや判読不能が生じないよう配慮すること．文字の高さは掲載時に2 ㎜以上となるようにし，背景とのコントラストにも十分留意すること．

iv） 顕微鏡写真（光顕・電顕とも）は撮影倍率を示すことが必要である．

v） 写真データには，必要に応じて図番号や上下の向き等が判別できる情報を付記すること．トリミングはデータ上で適切に行い，不要な余白は極力除くこと．

vi） 完成した写真は，図1枚につき1ファイルとして作成し，汚れや劣化が生じないよう適切にデータ管理すること．画像は，A4判相当のレイアウトで確認可能な画像度とする．

2枚以上の写真を組とするときは，コントラス

Presented by Medical*Online

トや濃淡のできるだけ揃ったものを用い2つの写真の間の空白は2㎜以下になるよう配慮する．いわゆるプレートとして組写真にするには，横13.8㎝×縦20.5㎝まで利用できる．
ⅶ）個人識別が可能な写真を掲載するときは，画像処理（マスキング等）により識別不可能とするか，あるいは患者もしくは法廷代理人の書面による許可が必要である．

11. 図の説明

1） 図とは別のファイルとして作成し，日本語で記載すること．同じファイルに図1，図2，と説明を続けてよい．図の表題は簡潔なものとする．それに続く説明部分は，改行して記載すること．

Presented by Medical*Online